



遊休地で稼ごう大作戦！ (その7)

# 「へそのごま村」構想 スタート！

井上敦夫



富士山をバックにゴマの花

海拔九五〇mで  
「開け「マー」」

山梨県忍野村は富士五湖地域の中にありながら湖を抱えていない村で、観光財産は忍野八海という湧水地のみです。当地は村名の由来でもありますが、忍草地区と内野地区で構成されています。内野地区の原地域は農業振興地域として展開し、八海を有する忍草地区と違い、素朴な原風景を残しています。

ここ最近の流れとして専業農業の高齢化と減少、補助金も先細りの中で遊休農地が増加しています。観光のためのヒマワリ畑やコスモス畑が富士山の借景と村主催の富士フォトグランプリの一環として展開されていますが、本来の農業は先行きが危ぶまれている状況にあります。

このような現状を打開するため、昨今の市町村統合で危ぶまれる村の存続

と、都会を中心に根付きつつある口ハ  
入的な生き方・流れを結び付けようと  
考えました。本来肥沃な温暖地域で栽  
培されているアラビアンナイト（千夜  
一夜物語）の開けゴマを、海拔九五〇  
mの当地で栽培し、たくさんの人を呼  
び込もうという企画です。

富士山の湧水地を日本のヘソと位置  
付けた「へそのごま村」構想。村内在

住の農業経験者で現在、比較的時間に  
余裕のある有志二〇名により「胡麻を  
作ってみよう会」を結成し、原地域の  
遊休農地四〇aを会で借り受け、栽培  
を始めました。

### お力ネをかけずに肥料を調達

老舗のゴマ問屋「和田萬商店」和田  
大象専務に、国内産の有機無農薬ゴマ

は市場性が高いことを聞き、企画の段  
階から相談に乗っていただきました。  
専務による「収穫後の買い付けを保証  
しましょう」という心強い支援（一  
kg当たり二〇〇〇円）や作付け情報  
の提供が追い風となりました。

会員の養鶏家から鶏糞を、乗馬クラ  
ブから馬糞を、国産大豆にこだわって  
富士湧水を用いる豆腐屋さんからオカ  
ラを、村が提唱しているEMボカシを  
提供いただくなど、お力ネをかけずに  
肥料を調達しました。そして昨年四月  
下旬、試行錯誤しながらの一年目が始  
まりました。

金ゴマの種子は三河安城産と茨城産  
に加え、二年前から村内の農家が栽培  
していた忍野産の三種。畑は苦土石灰  
二〇〇kgでpHを六・〇に整え、元肥は  
一〇a当たり成分でチッソ八〜一二  
kg、リン酸一〇kg、カリ八〜一〇kg。  
当地の海拔では当然ながらピニールマ  
ルチを敷設し、三丁五粒の直播きとポ



ふるいにかけて金ゴマ



ツト植えの両方で栽培。

直播きでは発芽から二週間、ゴマの苗が雑草に負けないように除草します（休耕していた畑だったため、放っておくと完全に雑草に喰われてしまう）。ゴマの発芽は順調でしたが、アカザの発芽と見分けがつきにくい。ポット植えでは一〇a当たり約七〇〇穴分の移植。思い返せば、これらは大変な作



業でした。

収量は目標の一〇分の一以下

しかし、順調に進んでいた生育に六、七月の天候不順が襲います。ゴマに限らず斑点細菌病（ベト）が多く見られました。あらためて元気な苗も移植しなおしたものの、低温時期に開花したゴマの実実は結実せずして落ちてしま



ゴマの収穫は脱粒しないよう手作業で行ない、ハウスで天日乾燥

いました。

収量は一〇a当たり一〇kgにも届かず、予想外の結果となってしまいました。目標にしていた茨城県での収量目安一〇〇kgに遠く及ばず。しかし、得られたデータは大変貴重なものでした。今後のゴマ栽培で改善すべき問題は一年目にほとんど出尽くしたといってもよいと思います。



会で開発したゴマのパン

種子の選定 背があまり伸びず、実つきがよく、病気にも強かった茨城県産の確保。

播種時期の吟味 台風時期からの逆算と高地という気象条件を考慮し、五月下旬～六月上旬に遅らせる。

ネキリムシ対策 苗の三割を切られてしまった。石灰チッソの施用で畑をアルカリ化する。

間引き不要 茎を一本のみ残すようにしたが、必要なかった。この失敗だけでかえって収量が三分の一になったといってもよい。

病害対策 木酢液だけでは、あまり

効果が見られなかった。今のところ打つ手なし。無農薬栽培では天候に頼るしかない。

会ではゴマを使ったパン・シフォンケーキ・ホワイトチョコプレートなどを試作するほか、テーマソングも作ってCD・DVDに収めました。あと二丁三年で産業化できるよう栽培技術を確認し、地域活性化の原動力にしたいと考えております。

（山梨県忍野村、胡麻を作ってみよう会）

企画宣伝担当）